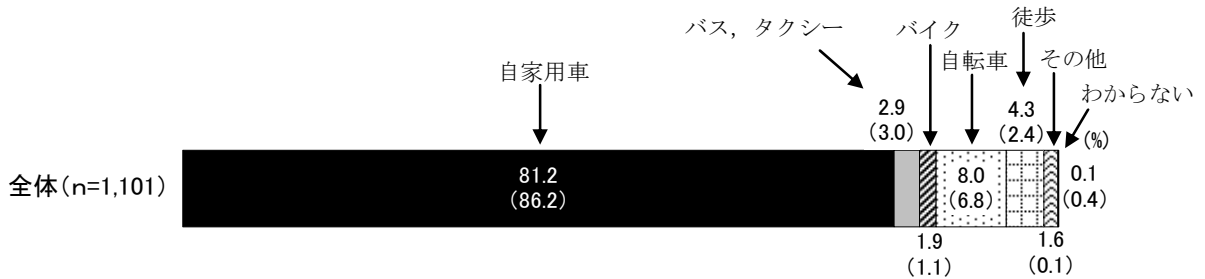


X 道路の整備

1. 日常生活での主な交通手段

—「自家用車」が8割超—

問28 通勤，通学，買い物など，日常生活の中での主な交通手段は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。



※()内の数値は，平成21年の調査結果

日常生活での主な交通手段としては，「自家用車」(81.2%)が8割を超えて最も高くなっている。

—「自家用車」が5ポイント減少—

前回調査(平成21年)と比べると，「自家用車」が5ポイント減少している。

—鹿行で「自家用車」が9割台半ば—

地域別で見ると，「自家用車」は，鹿行(95.8%)で9割台半ばと最も高くなっている。

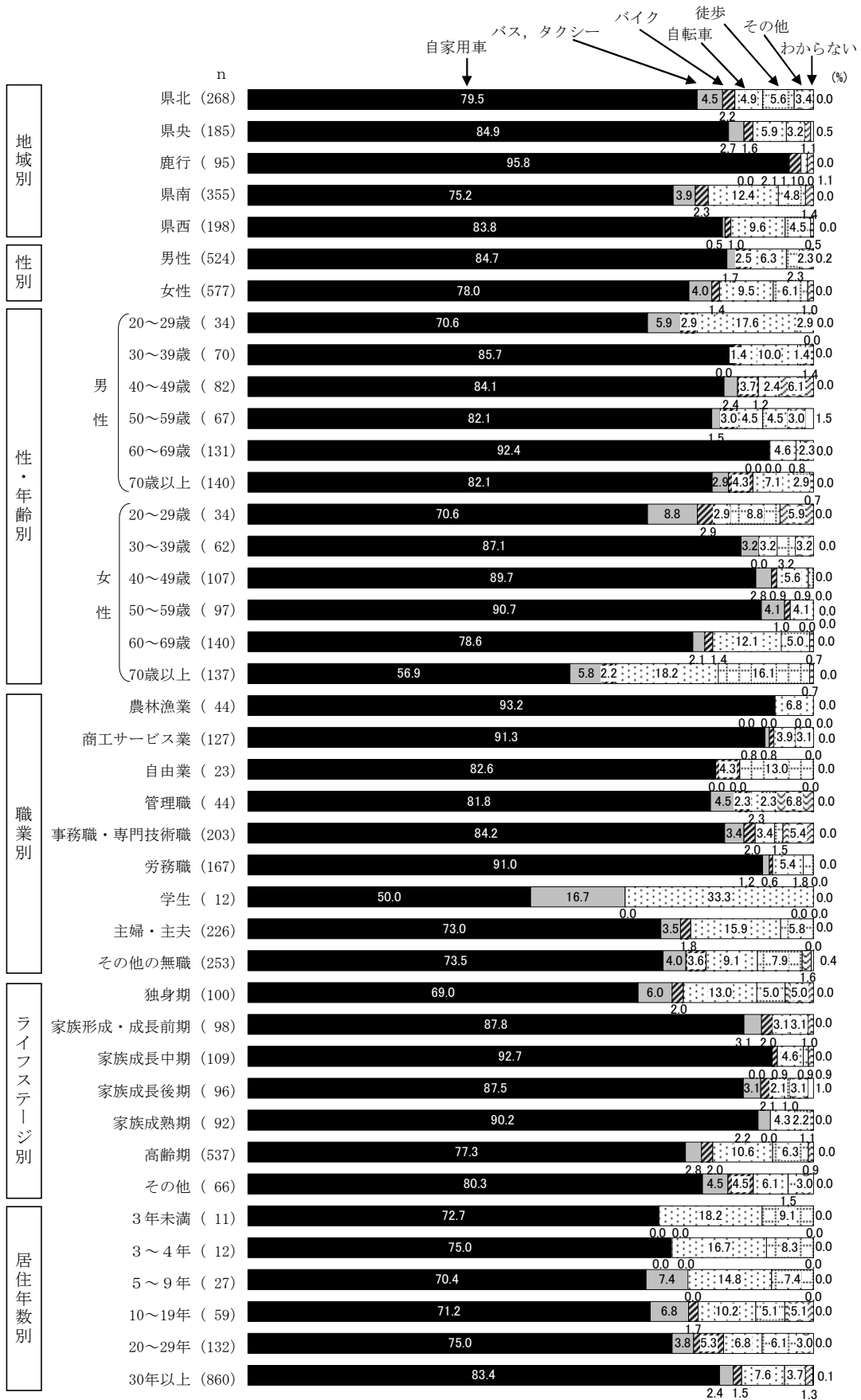
—「自家用車」は60代と70歳以上で男女差が大きい—

性・年齢別で見ると，「自家用車」は，男性の70歳以上(82.1%)が女性の70歳以上(56.9%)よりも約25ポイント高く，男性の60代(92.4%)が女性の60代(78.6%)よりも約14ポイント高くなっている。

—農林漁業，商工サービス業，労務職で「自家用車」が9割超—

職業別で見ると，「自家用車」は，農林漁業(93.2%)，商工サービス業(91.3%)，労務職(91.0%)で9割を超えて高くなっている。

図X 28-1 日常生活での主な交通手段
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)

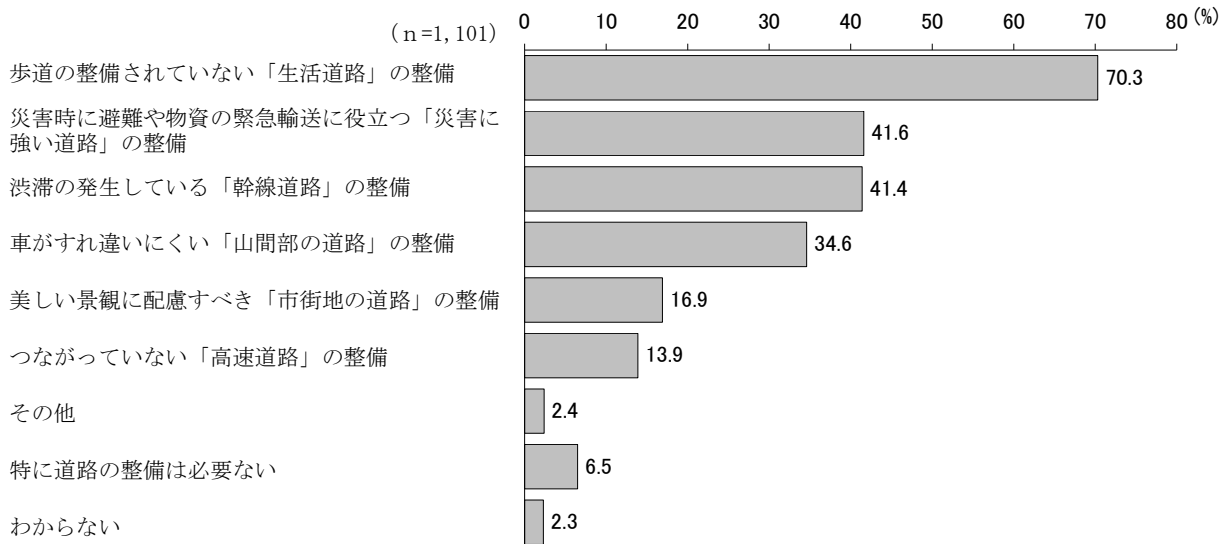


(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。

2. 重点的に整備を行うべき道路

—「歩道の整備されていない『生活道路』の整備」が約7割—

問29 どのような道路に対して、重点的に整備を行うべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。



重点的に整備を行うべき道路としては、「歩道の整備されていない『生活道路』の整備」(70.3%)が約7割と最も高く、次いで、「災害時に避難や物資の緊急輸送に役立つ『災害に強い道路』の整備」(41.6%)、「渋滞の発生している『幹線道路』の整備」(41.4%)が4割台、「車がすれ違にくい『山間部の道路』の整備」(34.6%)が3割台で続いている。

—**県北と鹿行で「災害時に避難や物資の緊急輸送に役立つ『災害に強い道路』の整備」が約5割**—
地域別でみると、「災害時に避難や物資の緊急輸送に役立つ『災害に強い道路』の整備」は、県北(49.3%)と鹿行(48.4%)で約5割と高くなっている。

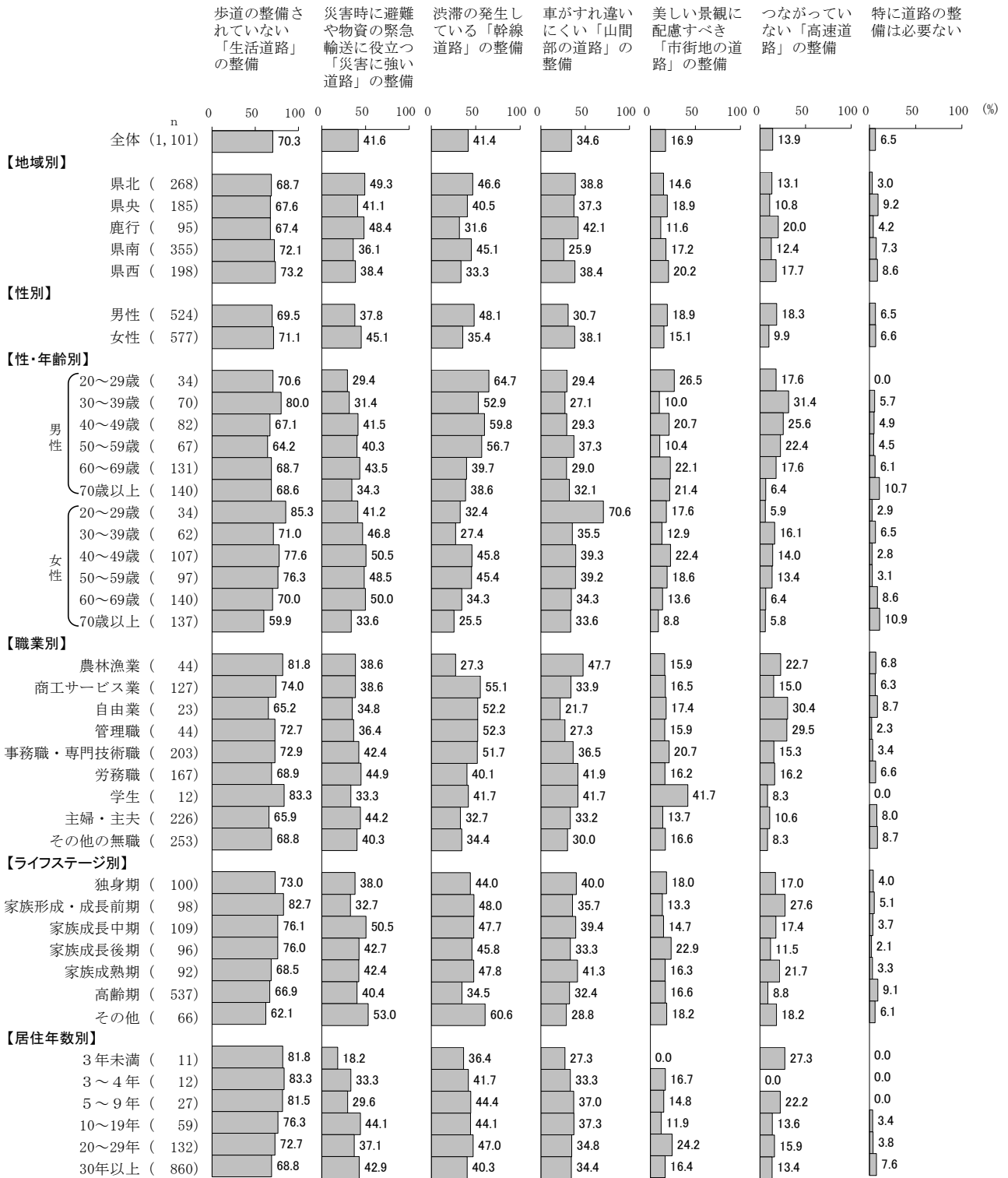
—**男性の20代から50代で「渋滞の発生している『幹線道路』の整備」が高い**—

性・年齢別でみると、「渋滞の発生している『幹線道路』の整備」は、男性の20代(64.7%)で6割台半ばと最も高く、男性の30代(52.9%)、40代(59.8%)、50代(56.7%)で5割台となっている。

—**家族形成・成長前期で「歩道の整備されていない『生活道路』の整備」が8割超**—

ライフステージ別でみると、「歩道の整備されていない『生活道路』の整備」は、家族形成・成長前期(82.7%)で8割を超えて最も高くなっている。

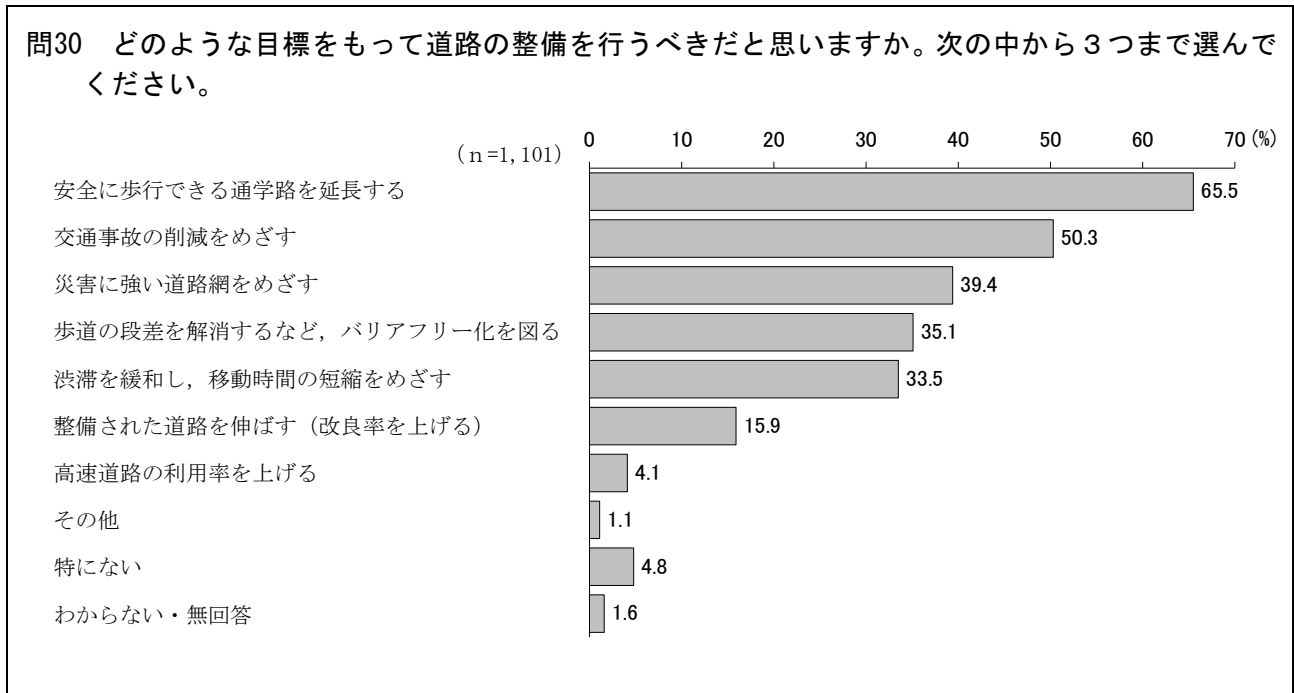
図X 29-1 重点的に整備を行うべき道路
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。

3. 道路整備の目標

—「安全に歩行できる通学路を延長する」が6割台半ば—



道路整備の目標としては、「安全に歩行できる通学路を延長する」(65.5%)が6割台半ばと最も高く、次いで、「交通事故の削減をめざす」(50.3%)が5割台、「災害に強い道路網をめざす」(39.4%)、「歩道の段差を解消するなど、バリアフリー化を図る」(35.1%)、「渋滞を緩和し、移動時間の短縮をめざす」(33.5%)が3割台で続いている。

—鹿行で「災害に強い道路網をめざす」が約5割—

地域別でみると、「災害に強い道路網をめざす」は、鹿行(47.4%)で約5割と最も高くなっている。一方、「渋滞を緩和し、移動時間の短縮をめざす」は、県北(40.7%)で約4割と最も高くなっている。

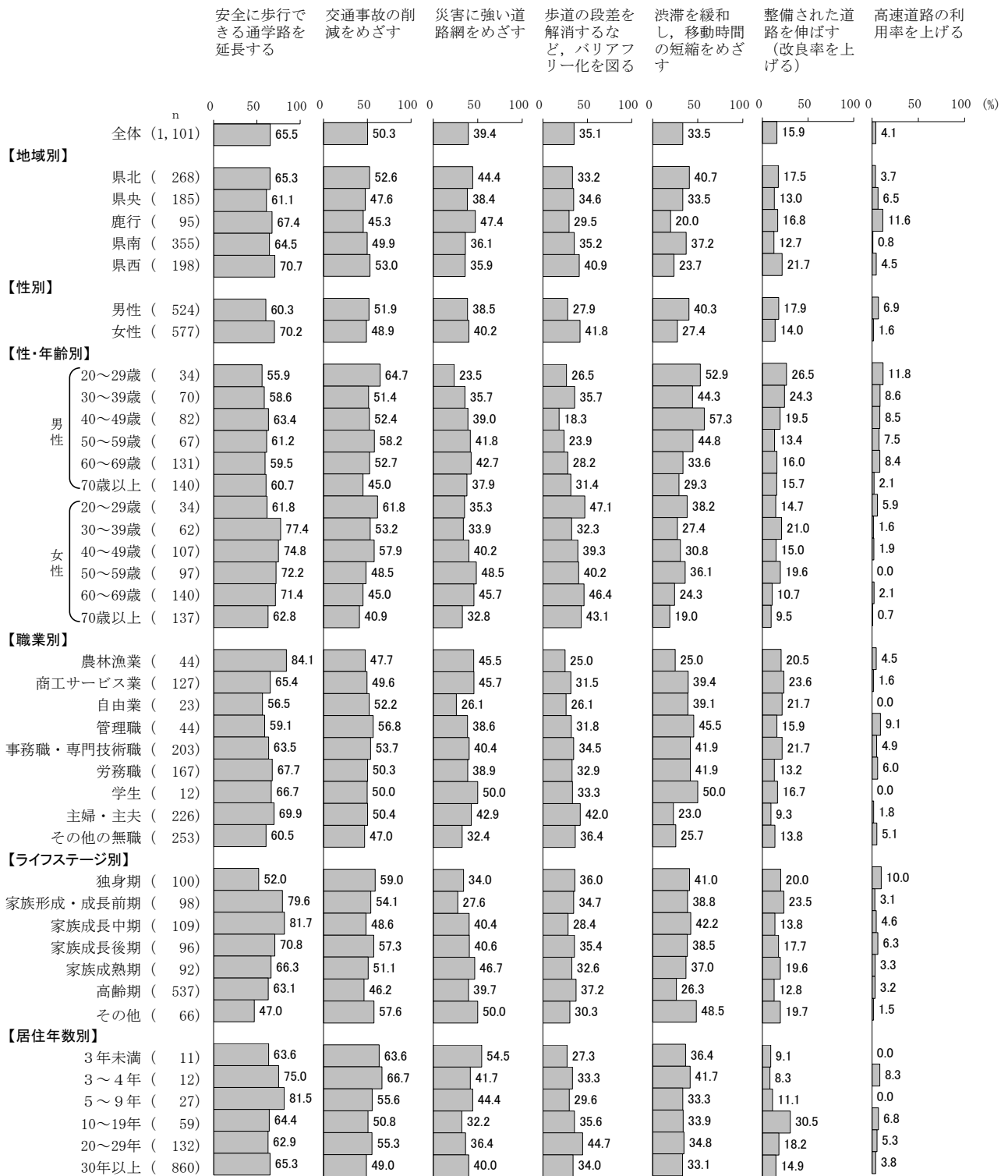
—女性で「歩道の段差を解消するなど、バリアフリー化を図る」が、男性で「渋滞を緩和し、移動時間の短縮をめざす」が高い—

性別でみると、「歩道の段差を解消するなど、バリアフリー化を図る」は、女性(41.8%)が男性(27.9%)よりも約14ポイント高くなっている。一方、「渋滞を緩和し、移動時間の短縮をめざす」は、男性(40.3%)が女性(27.4%)よりも約13ポイント高くなっている。

—女性の30代から60代で「安全に歩行できる通学路を延長する」が7割台—

性・年齢別でみると、「安全に歩行できる通学路を延長する」は、女性の30代(77.4%)、40代(74.8%)、50代(72.2%)、60代(71.4%)で7割台と高くなっている。

図X 30-1 道路整備の目標
(地域別、性別、性・年齢別、職業別、ライフステージ別、居住年数別)



(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。